

平成 29 年 8 月 28 日

平成 29 年 8 月 27 日付毎日新聞（25 面）

「立野ダム問題 国交省、虚偽説明認める 現地見学会 質問状の回答拒否」
との報道について

上記の見出しの記事において、以下の記載がありますが、事実関係は以下の通りとなっています。

1. 同記事抜粋

国土交通省は 26 日、(中略) 住民団体が見学会の場で文書回答するよう求めていた 35 項目の公開質問状に対する回答は再び拒んだが、7 月 29 日の前回見学会参加者が「虚偽説明」と指摘した工事用道路が 7 月 6 日の豪雨で流されていた事実は認めた。8 月 21 日に復旧したが、25 日夜から 26 日朝にかけての豪雨で再び工事用道路の下流側が浸水し使えなくなっているという。(中略)

また、ダム底の放流孔に押し寄せた流木や土砂がダムの水位上昇とともに水面に浮上した事例は世界的にも一例も確認されておらず、「放流孔は詰まらない」との国の主張の根拠は丸太状の木だけを流した模型実験結果しかないことも明らかにした。(後略)

2. 事実関係

見学会においては、限られた時間の中での説明となることから、参加者の皆様のご関心が高いと思われる事項を中心に説明することとしており、8 月 26 日の第 2 回見学会においても、平成 28 年熊本地震による被災箇所への復旧状況も含め、説明させていただきました(当日の配付資料は別添)。

1) 質問状の回答について

立野ダムに関して頂くご質問等については、質問内容を整理したうえで、事務所 HP トップに「よくある質問」をもうけ、そこで回答をすることとしており、質問状を提出された市民団体の皆様にもこの旨説明をしているとこ

ろです。

2) 左岸工事用道路（河床部）について

見学会では、熊本地震等により流出した左岸工事用道路（河床部）については、仮復旧が本年3月27日に完成した事実を説明しています。また、参加者からの質問に対し、当該工事用道路は恒久構造物とは異なり、出水等により損傷が生じることを想定したものであり、その都度補修しながら利用することとしているものであること、7月6日の出水により損傷し8月21日に仮復旧工事が完了したこと、8月26日の出水により損傷したこと、その都度復旧を行い利用するものであることを説明しており、虚偽の説明をしたとの認識はありません。

3) 放流孔について

見学会においては、放流孔について、立野ダムと同様の型式（流水型ダム）の既設ダムにおいて、放流孔内が土砂や流木により閉塞した事例は確認されていないこと、立野ダムについて模型実験により検証を行っていること等説明しています。立野ダムの放流孔の構造については、土砂や流木がダムの洪水調節能力に影響を与えない構造とするよう、学識者・専門家の助言を受けるとともに、模型実験を含めた種々の調査・検討により構造を選定しています。